シリーズ！　我が国からの議長・副議長に聞く　その4

西田（にしだ）　幸博（ゆきひろ）　ITU-R SG6議長（RA-15選出（新任））

専門領域：映像方式、映像符号化、品質評価、放送方式
略　　歴：
1985年　慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了
1985年　日本放送協会入社
1996年　ITU-R SG11関連会合への参加開始
1999年　ITU-R SG11 WP11B副議長（組織変更によりWP6D、WP6A、WP6B）
2007年　ITU-R SG6副議長就任
2008年　ITU-R SG6 WP6B議長就任
2015年　ITU-R SG6議長就任（現在に至る）

―― RA-15から1年半余りが経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

西田　3回のSG会合を終え、当初の不安な気持ちは徐々に解消しつつありますが、無線通信セクターで唯一の日本人SG議長という重圧からは逃れようがありません。

―― ご専門領域とご経歴、ITU（SG）との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

西田　ITU-Rでの放送技術の標準化に関わり始めて20年が過ぎました。ITU-Rのほか、電波産業会（ARIB）や情報通信審議会での国内放送方式の標準化や、国際的な放送事業者団体での標準化にも参加しています。

―― これからRA-19/WRC-19に向けて議長としてリーダーシップを発揮されていくことになりますが、今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

西田　モバイル通信が飛躍的に普及し、放送番組の視聴のされ方が変わりつつある中で、放送の将来像を描き、放送の発展に貢献することがSG6の使命です。高品質な放送コンテンツを効率的に視聴者に届けるための技術とスペクトルの確保が最重要課題です。

―― 議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

西田　ITU-R SG6は数多くの勧告やレポートを作成し、生産性の高いSGの一つです。この良き伝統を引き継ぎつつ、一層の活性化を図りたいと思います。放送の将来を見据え、進取の精神で新しい技術･アイデアを放送に取り入れていきたいと思います。

―― 議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

西田　元議長が引き続き参加している中での舵取りはやりにくさを感じるときがありますが、先賢に学びつつ、また、SG副議長、WP議長･副議長、カウンセラーを交えたマネジメントチームの総力で課題解決を図っていきます。

―― 我が国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

西田　放送を取り巻く環境が変わりつつある中においても、放送の役割･重要性が引き続き理解されることを願っています。我が国は、世界初の直接衛星放送、HDTV、緊急警報放送、最近の4K･8Kなど絶えず先進的な取組みを行っており、今後も他国の模範となることを期待しています。

―― 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長としてこうした加盟国（事業体）に対して期待することはどのようなことがありますか。

西田　放送の発展という共通の目標に向けた建設的な議論がなされることを期待しています。

―― 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

西田　中学･高校時代にアマチュア無線やBCLに熱中したことが、仕事として放送に関わることになった遠因かもしれません。テレビは大好きで、ながら視聴・真剣視聴といろいろですが、テレビの無い生活は考えられません。

―― このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

西田　放送は90年を超える長い歴史を持つマスメディアであり、技術の進化とともに発展してきました。今後も、ICT技術の進展とともに最先端技術で放送を支えるための技術開発と標準化が必要です。また、ITUでの国際標準化に携わることは、世界に貢献する仕事だと思います。皆様のご支援をお願いします。

【読者のための豆知識】
SG6（第6研究委員会）の活動内容：
放送番組の制作･交換から送信･受信までの放送のエンド-ツーエンドにわたる研究

かわい　のぶゆき
河合　宣行　ITU-R SG4副議長（RA-15選出（再任））

専門領域：衛星通信（移動体衛星通信、VSATシステム等の設計開発、周波数共用等）

略　　歴：

1985年　北海道大学工学部 電子工学科卒業
1985年　国際電信電話株式会社（現KDDI株式会社）入社
1993年　インマルサット本部（ロンドン）に出向
2002年　国際ネットワーク部 衛星通信グループリーダー
2011年　山口衛星通信センター長
2012年　ITU-R SG4副議長就任（現在に至る）
2014年　グローバルネットワーク・オペレーションセンター（GNOC）副センター長

――　RA-15から1年半余りが経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

河合　今会期は、SGのマネジメントに、よりプロアクティブに貢献したいと思います。

――　ご専門領域とご経歴、ITU（SG）との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

河合　2000年頃から、ITU-R SG4、WP4A、WP4Bの活動に関わり、IP利用を含む新たな衛星通信利用促進や災害時の衛星利用に関する勧告・報告の作成等に携わってきました。また、WRC-15では、議題1.9.2（7/8GHzの海事衛星通信業務への新規分配）のDG議長を務めました。

――　今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

河合　様々な周波数帯における衛星通信とモバイル通信の共用検討が、最重要課題です。

――　副議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

河合　WRC-19に向けた衛星関連の議題に関する研究の完遂、特にWP4CがCPMテキスト作成責任を負っている議題9.1.1（2GHz帯IMT）、議題1.8（GMDSSの近代化及び新たな衛星プロバイダ）に注力したいと考えています。

――　副議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

河合　異なる国や地域の間で意見が対立する議事の調整が最も難しい。議論を尽くすための場づくり、客観的・公平な視点での仲裁、着地点を意識した議事進行等を、誠意をもって進めるしかないと思います。ドラフティンググループの議長やITU事務局メンバーとの信頼関係の醸成も欠かせません。

――　我が国の政府関係者やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

河合　総務省や国内関係機関の方々のサポートには感謝しております。事業者やベンダーの方々との課題検討の場にも参加する機会を頂き、ITU-Rの活動をより有機的なものとすることに役立っています。

――　他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、副議長として加盟国（事業体）に対して期待することはどのようなことがありますか。

河合　ITU-Rにおいては、国・地域間の利害が対立することも多いのですが、長期的な観点から、より建設的、調和的な議論ができることを望んでいます。

――　個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

河合　ギターを弾きながら歌うのが好きです。昨年、同僚の結婚パーティーで弾き語りを披露する機会があり、学生時代のバンド活動以来、久々に燃えました。

――　このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

河合　ITU-Rは、有限な資源である周波数や衛星軌道の利用という、大変重要な課題を扱っており、活動を通じて、各国にかけがえのない友人を作ることもできます。是非多くの、特に若手の皆さんにこの活動に関心を持っていただければ有難いと思います。

【読者のための豆知識】
SG4（第4研究委員会）の活動内容：
固定衛星、移動衛星、放送衛星及び無線測位業務の衛星業務全般

新（あたらし） 博行（ひろゆき）　ITU-R SG5副議長（RA-15選出（新任））

専門領域：第4世代以降の携帯電話システムの研究開発、周波数の標準化

略　歴：

1999年　NTT移動通信網株式会社（現、株式会社NTTドコモ）入社

2006年　ITU-R、APTにおける標準化活動に従事

2015年　ITU-R SG5副議長就任（現在に至る）

―― RA-15から1年半余りが経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

新　SG5の副議長には18名のメンバーが任命されています。我が国からご推薦をいただき、日本国の代表としてこの役を担っていることを踏まえ、18名の中でも日本の貢献が少しでも目に見えるよう、SG5の活動に貢献することを意識しています。

―― ご専門領域とご経歴、ITU（SG）との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

新　2006年から、ITU-RやAPTにおける携帯電話システム及び周波数の標準化に従事しています。2015年にはITUの世界無線通信会議にて、携帯電話周波数の追加特定に関する議題1.1の検討を行うサブワーキンググループ議長を仰せつかり、貴重な経験をさせていただきました。

―― これからRA-19/WRC-19に向けて副議長としてリーダーシップを発揮されていくことになりますが、今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

新　SG5は幅広い分野を取り扱っていますが、2020年にかけて実施する第5世代携帯電話システム（IMT-2020）の無線方式の標準化や、WRC-19における24.25～86GHzにおける携帯電話周波数の特定（議題1.13）に向けた検討、が大きなテーマであると考えております。

―― 副議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

新　議長役として会議等を仕切る役割の場合には、公平な議論が進行できるように注意しています。また会議の場だけでなく、日頃から関係者とのコミュニケーションをとり、信頼関係を構築することを意識しています。

―― 副議長としての難しさや壁（障壁）、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

新　議論が対立・紛糾した場合に、いかに調整力を発揮して課題を解決していくか、という点です。ベテラン議長がどのように課題を解決しているかを観察したり、自分であればどう解決するかと自問自答し、対処方法の引き出しを増やしていく必要があると考えています。

―― 我が国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

新　SG5副議長にご推薦をいただいた総務省様、日頃の活動をバックアップいただいている会社から、多大な理解・協力をいただいています。逆に自分がその期待に応えられるよう、精力的に活動をしていきたいと考えております。

―― 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、副議長としてこうした加盟国（事業体）に対して期待することはどのようなことがありますか。

新　先輩方が築いてこられた日本のプレゼンスをさらに向上させていく上で、自身の振る舞いが他国の関係者との協調・協力に直結すると感じています。日本は頼りになると思われるように、彼らの期待を吸い上げていく必要があると考えています。

―― 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

新　子供の興味もあり、ここ数年水族館めぐりをするようになりました（葛西臨海水族園、鴨川シーワールド、アクアワールド・大洗、横浜・八景島シーパラダイス、新江ノ島水族館、海遊館、……）。

―― このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

新　これからも皆様のご協力を賜りながら、活動を続けていきたいと考えております。何かご不明の点などあれば、お気軽にお問合せいただければと存じます。

【読者のための豆知識】

SG5（第5研究委員会）の活動内容：
地上業務に関わる無線通信技術、運用等の問題の研究及び勧告等の作成